

④7旧古河庭園洋館外壁修復事業

受賞機関 東京都 東部公園緑地事務所

キーワード 歴史的建築物の修繕

全建賞審査委員会の評価ポイント

国指定名勝の旧古河庭園において、竣工から100年以上が経過した洋館の大規模外壁修理を実施した。モックアップによる実験に基づき石材の修理工法を決定し、一つ一つ手作業で加工することで竣工当初の外観を保持するとともに、仮設メッシュシートやデジタルサイネージの活用により、来園者への影響に配慮した点が評価された。

1. はじめに

旧古河庭園洋館は、大正8年竣工の歴史的建築物であり、国指定名勝・旧古河庭園の構成要素の一つである。外壁は赤みを帯びた新小松石張りで、竣工から100年以上を経た現在も保存・活用されている。本事業は、その歴史的価値を踏まえ、外観維持と建物保全を図るための外壁修理の事業である。

2. 事業の概要

本事業では、前回修理から約25年を経て外壁石材にひび割れ等が生じたことを受け、外壁の変色部における高压温水洗浄実験及び成分調査を行うとともに修理方法を検討・設計し、外壁全面1,633㎡を対象に修理工事を実施した。外壁石材の多くは竣工当初のものであるため、保存を基本とし、交換を最小限に抑える方針とした。その上で、意匠や景観との調和を図りながら適切な修理方法を選定するため、現況把握と試験施工を行い、施工条件を整理した。

設計段階では、モックアップを作成し、既存石の撤去方法、補修材の性状、金物への対応、表面保護の方法を試験した。その結果を踏まえ、石材交換やセメントスラリー注入等、部位や劣化状況に応じて修理方法を使い分けることとした。新補材は既存材に合わせて手作業で加工し、露出した金物には防錆処理を施すとともに、石材には吸水防止剤及び強化還元剤を塗布した。

工事は、洋館を公開しながらの施工となるため、来園者への影響を考慮して2期に分けて実施した。工事期間中はデジタルサイネージを用いて工事情報を発信し、仮設足場に洋館の外観をプリントしたメッシュシートを使用することで、景観及び来園者への影響にも配慮した。



モックアップ



洋館の外観をプリントしたメッシュシートの仮設足場

3. 事業の成果

本事業では、ひび割れ等が見られた外壁石材に対し必要な修理を行い、外観の維持と建物保全を図った。修理後は、既存石材の意匠を損なわない仕上がりとなり、庭園全体の景観維持につながっている。また、劣化状況に応じた工法を適用し、防錆処理や表面保護を行ったことで、今後の適切な維持管理に資する状態とした。

4. おわりに

本事業は、歴史的建築物の保存に必要な修理を着実に行うとともに、工法の検討過程や施工で得られた知見を、今後活用できる形で蓄積した取組である。旧古河庭園洋館の価値を損なわないよう配慮しながら、公開施設としての運営と工事との両立を図った点にも意義がある。

本事業で得られた知見を踏まえ、今後の歴史的建築物の保全・修理においても、保存と活用の両立に資する取組を継続していく。

賛助会員 清水建設(株)、(株)オクテムデザイン